

佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館

世界遺産登録10周年記念企画展『有明海と船の歴史』

開催期間：2025年7月8日（火）～2025年9月7日（日）



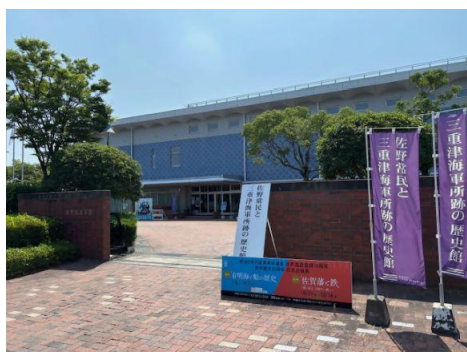
【企画展の内容・目的】

- 企画展『有明海と船の歴史』では、幕末の時代を中心とした、有明海と佐賀の関わりや歴史を振り返りながら、これからどのように共生し、将来へと守りつないでいくのか、未来を生きる子どもたちや人々に伝えることを目的としました。
- 有明海や世界遺産・三重津海軍所跡について学ぶ講演会や、子どもたちが楽しみながら学べるワークショップやクイズラリーなどを開催し、有明海や船の歴史と、佐賀の人々と有明海とのつながりを、身近に感じてもらうことを目標としました。
- 登録10周年を迎えた世界遺産「明治日本の産業革命遺産」について、広く周知を行いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

1. 企画展示の内容

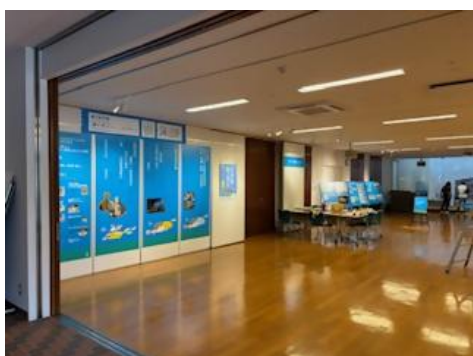
- 開催期間：2025年7月8日（火）～2025年9月7日（日）
- 開催場所：佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 イベントホール、多目的室
- 入場者数： 3,799人



歴史館 外観



企画展会場 入口



企画展『有明海と船の歴史』は、佐賀市の三重津海軍所跡が構成資産である世界遺産「明治日本の産業革命遺産」の登録10周年を記念して企画しました。蒸気機関や電気などの動力がなかった時代に、有明海の干満差を利用することで、洋式船を修理するドライドックを整備した三重津海軍所跡を紹介しました。合わせて干潟や生き物などの有明海の特徴、特にラムサール条約湿地に登録されている佐賀市の「東よか干潟」を周知することで、古代から現代まで続く、佐賀と有明海の関わりに思いを馳せていただき、有明海を守っていきたいという気持ちの喚起を目指しました。

企画展では、第1章「佐賀の前海 有明海」第2章「和」から「洋」へ 船の歴史」第3章「有明海×明治日本の産業革命遺産」第4章「近代へ 有明海の今」という4つの章立てをしました。有明海のメカニズムや古代からの佐賀との関わりについて触れる第1章と、現代の有明海の生き物や自然について触れる第4章を、歴史館の入り口に近い多目的室（無料ゾーン）に配置し、気軽に観覧できるようにしました。第2章については北海道江差に沈んだ蒸気船開陽丸の水中遺物や勝海舟、坂本龍馬関連資料を展示、第3章については三重津海軍所跡と、同じく干満差を利用して明治に整備された三池港を比較展示することで、来館者の理解を深めました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



第1章「佐賀の前海 有明海」では、パネルを用いて有明海の満ち引きのメカニズムや泥の堆積などを解説、8,000年前の有明海に面していた東名（ひがしみょう）遺跡や、中国から有明海を通して佐賀の地に上陸したと言われる徐福伝説を紹介し、佐賀と有明海の歴史の深さを伝えました。



第2章「和から洋へ 船の歴史」では、和船から洋式船への変遷を明確にするために、当時の和船（千石船）と洋式船（蒸気船）の大きさを比較するパネルを設置しました。また、当時の蒸気船の様子をリアルに感じてもらうために、北海道江差沖に沈んだ開陽丸の遺物（海中から引き揚げたもの）を展示しました。また、勝海舟の手書きノートや、坂本龍馬にちなむ書状などの歴史史料も展示しました。



第3章「有明海×明治日本の産業革命遺産」では、「明治日本の産業革命遺産」の構成資産のうち、有明海の「引き潮」を利用して、洋式船を修理するためのドライドックを整備した「三重津海軍所跡」と、有明海の「満ち潮」を利用して、石炭を積む大型船が入港できる港を整備した「三池港」を紹介しました。



第4章「近代へ 有明海の今」では、ラムサール条約湿地として登録されている「東よか干潟」などにおける有明海の生き物、泥、むつごろう釣りなどの漁業を紹介することで、世界遺産の景観の一部をなしている有明海の素晴らしい環境を伝えました。

【来館者の声】

- 海の環境の保護がとても大切だと思いました
- 海の貿易の様子や生活の様子が分かりました
- 干潮・満潮の不思議
- 有明海を守ることは先人たちへの義務だと思いました
- 有明海は干満の差が激しいことで、船の修理ができた。本当に昔の人は偉い！
- 干潟の役割
- 珍しい生き物が生息していること
- 宝の海を大事に残すこと
- 様々な生態系、暮らしを維持するための保全活動が大切であること
- 有明海の干潟の特徴を活かした船の設備に感動しました
- 三重津海軍所跡に初めて行って感激しました

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 関連事業の内容

■灘越蝶文うつわ絵付けワークショップ

【開催日時】2025年7月19日（土） 14:00～16:00

【開催場所】佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 多目的室

【参加者数】 30人

【実施内容・目的】

- 三重津海軍所跡では「灘越蝶文（なだこしちょうもん）」と呼ばれる、「荒波を超えて飛翔する蝶」が描かれた食器が出土しており、この場所を象徴するひとつのシンボルとなっています。灘越蝶文を皿に描き、うつわを作るワークショップを行い、歴史的に海と親しんできた佐賀の文化を伝えました。
- 参加者は素焼きのうつわに思い思いの蝶を描き、後日焼きあがった作品を受け取りました。



三重津海軍所跡のゆかりのある「灘越蝶文（なだこしちょうもん）」について、実物を見て学び、講師から描き方を教わりました。

講師の絵を手本にして、蝶を眺めながら大海に乗り出していった当時の人々に思いを馳せながら、参加者それぞれの絵付けを行いました。（8月下旬に焼き上がりの品をお渡ししました。）

【来館者の声】

- 絵付けの先生が、本当に蝶が海の上を飛んでいたのを見ましたよ、と言われていたのがとても印象的でした。
- 船の無事を祈っている人々の気持ちを感じました。海は恵みであり、事故も起きるけれど人々にとって大切な資源だと思いました。
- 灘越蝶文の波を描くことで、海を感じました。よい企画をありがとうございました。
- 自分で描いたり触れたりすることで、その時代の人々のことが分かって良かったです。

■有明海の泥を使う「光る泥団子」づくり

【開催日時】 2025年8月10日（日）、24日（日）

【開催場所】 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 多目的室

【参加者数】 62人

【実施内容・目的】

- 三重津海軍所跡の近隣で採取できる干潟の泥を使って、「光る泥団子」を作るワークショップを行いました。
- 同時に有明海の干潟の成分や、成り立ちについても学ぶことができました。



有明海の泥を手で丸めて、乾燥させ、成形することで、ピカピカに光る泥団子を作りました。子どもたちが直接泥に触れながら整形していくことで、粒子が細かい干潟の泥の性質を直感的に学ぶことができました。

【来館者の声】

○子供も有明海の泥に触れたことがなかったので良かったです。

○こすることでつるつるになるのでふしぎでした。

■下山正一先生講演会「有明海と地下に眠る三重津海軍所ドライドックの謎」

【開催日時】 2025年8月3日（日） 10:00～12:00

【開催場所】 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 多目的室

【参加者数】 60人

【実施内容・目的】

- 日本一の干満差と言われる有明海の満ち引きや、泥の堆積作用について解説した上で、三重津海軍所跡での発掘や地質の調査結果から、有明海がドライドックの建設、運用、放棄にどのように関わったかを考察しました。



考古学や文献からの考察が中心となっている三重津海軍所跡について、理系の地質学的な考察を加えることで、今まで知るところが少なかった災害などの有明海の歴史や、それが三重津海軍所跡にどのように影響しているかを知ることができました。

【来館者の声】

- ドライドックと有明海について知ることができた。
- 「海」と書かれた食器が佐賀藩の海軍で使われていることが興味深かったです。
- 有明海について初めて知ることが多かった。
- 多目的室の展示に親しみを感じた。孫も喜んだ。
- 佐賀低平地の成り立ちが海の干満差に由来していることが興味深かった。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■坂本卓也先生講演会「佐野常民「覚書」から読み解く蒸気軍艦日進丸の発注交渉」

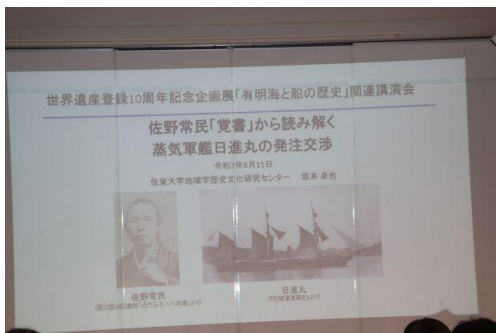
【開催日時】2025年8月11日（月・祝） 10:00～12:00

【開催場所】佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 多目的室

【参加者数】42人

【実施内容・目的】

●幕末の佐賀藩がオランダに発注した蒸気軍艦日進丸。その発注交渉にあたった佐野常民が残した「覚書」の内容から、日進丸発注交渉の過程を紹介しました。有明海の特性を踏まえた上で蒸気軍艦の構造等を検討していたことが分かりました。



幕末に佐野常民がオランダで行った蒸気軍艦の発注交渉の覚書を読み解くことで、有明海的环境下で蒸気船を運用するために、佐野が行った交渉の経緯を知ることができ、佐賀と海との歴史をより深く学びました。

【来館者の声】

- 船がテーマだったので、海を上手に利用しているなと思った。
- 有明海の特性を踏まえ、日進丸の設計仕様を決めようとした点。当時の関係者の考え方や努力の跡が伺えた点が興味深かった。
- 有明海の干満差を利用したドライドックは、この海だったからできたと思うと、海的神秘を感じました。
- 私たちは海で全世界の人達とつながっているんだなあと思いました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■教育版マイクラフトによる三重津海軍所跡と水辺ワークショップ

【開催日時】 2025年8月9日（土） 13:00 ～ 16:00

【開催場所】 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館 多目的室

【参加者数】 30人

【実施内容・目的】

- 歴史館の見学を通じて三重津海軍所跡のことを学んだ後に、教育版マイクラフトを用いて、デジタルのものづくりを楽しみながら、豊かな海の大切さを学んだ。



マイクラフトの世界内に「三重津海軍所跡のドライドック」「佐賀藩が建造した蒸気船凌風丸」「海辺の水族館」などを構築することで、楽しみながら「海の学び」を行いました。

【来館者の声】

- なんで有明海のどろはねちょねちょしているの？
- 水の満ち引きが大きいと思った。
- 模型を見て、海で動いているところが見たいと思った。
- マイクラフトのイベントや、展示されている映像で、三重津海軍所が潮の干満差をうまく利用した施設であることがよく理解できた。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

■佐野・三重津歴史館～ひがさすクイズラリー

【開催日時】 2025年7月19日（土）～8月28日（木）

【開催場所】 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館
東よか干潟ビジターセンターひがさす
佐賀市エコプラザ
東名縄文館

【参加者数】 484名（佐野・三重津歴史館での参加者）

【実施内容・目的】

- 夏休みの親子が、有明海と関連の深い「佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館」「東よか干潟ビジターセンターひがさす」を含む4施設を巡りながらクイズに答えていくことで、有明海や三重津海軍所跡について知り、親しみを持つきっかけとしました。



佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館内の3カ所にクイズを設置し、館全体を回ること
で、展示を見て有明海のことを知ることができました。

【来館者の声】

- 今まで行ったことがないいろんな施設に行くことができた。
- 歴史館の展示で有明海のことを知ることができた。

【事業全体のまとめ】

令和7年度は世界遺産「明治日本の産業革命遺産」登録10周年であったため、記念企画展の開催を検討しました。「明治日本の産業革命遺産」の構成資産のひとつである佐賀市の「三重津海軍所跡」の価値を分かりやすく伝えるために、「三重津海軍所跡」と「有明海」の関係にポイントを絞り、干満差を活かしてドライドックを整備した、幕末佐賀藩の人々の知恵と挑戦を知ってもらおう企画内容を考えました。合わせて佐賀との関わりが深い有明海そのものの歴史や魅力を伝えられるようにしました。

「海の学びミュージアムサポート」の支援を得たことで、東京都大田区を含めた広い範囲から資料を借用し、展示内容に厚みを加えることができました。またポスターやチラシ、展示パネルのイメージカラーを青に統一し、コーナー表示などを追加することで、来館者にとって分かりやすい展示を目指しました。

また、企画展のみでなく、ワークショップや講演会、クイズラリーを開催することで、様々な客層を歴史館に呼び込み、そういった方々が合わせて企画展にも目を向けるよう、展示場所を工夫しました。

多くの来館者から「展示から海を感じることができた」との評価をいただき、また「三重津海軍所跡」の価値についても、広く周知することができました。

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 徴古館（鍋島報効会）	展示物の借用、連携展示
2. 佐賀県立図書館	展示物の借用
3. 武雄市図書館・歴史資料館	展示物の借用
4. 大田区立勝海舟記念館	展示物の借用
5. 大牟田市石炭産業科学館	展示物の借用
6. 東よか干潟ビジターセンターひがさす	展示物の借用、クイズラリーの実施
7. 東名縄文館	展示物の借用、クイズラリーの実施
8. 佐賀県立佐賀城本丸歴史館	連携展示
9. 佐賀大学	講演会、ワークショップの講師派遣
10. 佐賀市エコプラザ	クイズラリーの実施
11. 中川副まちづくり協議会歴史・伝統部会	ガイド等のボランティア
12. 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館ボランティア	ガイド等のボランティア

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 佐賀市報	世界文化遺産登録10周年企画展「有明海と船の歴史」 2025年7月1日号
2. 月刊ぷらざ	「有明海と船の歴史」2025年7月1日号
3. 佐賀新聞	「有明海と船の歴史」2025年7月6日号
4. 西日本新聞	「有明海と船の歴史」2025年7月8日号

以上